

## 【 トークセッション詳細 】

### 第1回『街と人のつながりのこと』

—「街をより良くするために、自分自身がかかわっている」そんな都市に対する市民の誇り＝「シビックプライド」は、市民一人一人に行動する力をもたらし、また、それは都市を未来へと動かす推進力ともなります。オリンピック・パラリンピックが開催される2020年の東京というまちに、「顔」を浮かべる《まさゆめ》。東京大会を前に、街がつけられていく高揚感や未来へのビジョンはどのように共有することができるのか、そして東京という街で《まさゆめ》を発表する意図について語り合います。

実施日：4月11日（土曜日）14時30分～16時

出演：現代アートチーム 目 [mé]

ゲスト：紫牟田 伸子（編集家/プロジェクトエディター/デザインプロデューサー）

〈ゲストプロフィール〉

美術出版社、日本デザインセンターを経て、2011年に個人事務所設立。「ものごとの編集」を軸に、企業や社会・地域に適切に作用するデザインを目指し、地域や企業の商品開発、ブランディング、コミュニケーション戦略に携わる。また、都市と人の関わりの調査・研究も手がけ、編集・執筆を行っている。主な著書に、『シビックプライド：都市のコミュニケーションをデザインする』『シビックプライド2：都市と市民の関わりをデザインする』（共に共同監修/宣伝会議/2008、2015）、『シビックエコノミー：私たちが小さな経済を生み出す方法』（編著/フィルムアート社/2016）など。多摩美術大学ほか非常勤講師。



### 第2回『「見る」ということ』

—実在するたった一人の顔を景色の中に浮かべるといふ人々の目に“ありえない”景色を作り出そうとしている《まさゆめ》。顔、身体、思考、経験など、自分と同じくする人はいない中、わたしたちの「見る」という行為や経験をあらためて問い直し、一人一人異なるからこそ見えてくるものの可能性を探ります。

実施日：4月12日（日曜日）14時30分～16時

出演：現代アートチーム 目 [mé]

ゲスト：伊藤 亜紗（美学者）

〈ゲストプロフィール〉

東京工業大学科学技術創成研究院未来の人類研究センター准教授。リベラルアーツ研究教育院。MIT 客員研究員（2019）。専門は美学、現代アート。もともと生物学者を目指していたが、大学3年次より文転。2010年に東京大学大学院人文社会系研究科博士課程を単位取得のうえ退学。同年、博士号を取得（文学）。主な著作に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社）、『どもる体』（医学書院）、『記憶する体』（春秋社）など。WIRED Audi INNOVATION AWARD 2017、第13回（池田晶子記念）わたくし、つまり Nobody 賞（2020）受賞。



### 第3回『東京の風景のこと』

—開発が進む湾岸エリアから風情が残る下町エリアまで、多様なイメージを持つ東京。そうした東京の街を借景し、顔を浮かべる《まさゆめ》。オリンピック・パラリンピックを前にさらに変化しつづける東京の風景を、世界各国を旅してきた石川氏の経験をもとに、アーティストの目線から見つめ直します。

実施日：4月14日（火曜日）19時30分～21時

出演：現代アートチーム 目 [mé]

ゲスト：石川 直樹（写真家）

〈ゲストプロフィール〉

1977年東京生まれ。写真家。東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。人類学、民俗学などの領域に関心を持ち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。『CORONA』（青土社）により土門拳賞受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』（集英社）ほか多数。最新刊に写真集『まれびと』（小学館）、『EVEREST』（CCCメディアハウス）など。



## 《まさゆめ》とは

年齢や性別、国籍を問わず世界中からひろく顔を募集し、選ばれた「実在する一人の顔」を2020年夏の東京の空に浮かべるプロジェクトです。各地の国際芸術祭でその独創性と創造性で話題をさらってきた現代アートチーム 目 [mé]、そのアーティストである荒神明香が中学生のときに見た夢に着想を得ています。実際に顔が浮かぶ日に向けて、多くの人々の体験や記憶に結びつきながら、プロジェクトの意味や本質を共有していきます。



《まさゆめ》  
公式ウェブサイト

## 目 [mé]プロフィール

アーティスト 荒神明香、ディレクター 南川憲二、インストレーター 増井宏文を中心とする現代アートチーム。個々の技術や適性を活かすチーム・クリエイションのもと、特定の手法やジャンルにこだわらず展示空間や観客を含めた状況／導線を重視し、果てしなく不確かな現実世界を私たちの実感に引き寄せようとする作品を展開している。主な作品・展覧会に「たよりない現実、この世界の在りか」（資生堂ギャラリー、2014年）、《Elemental Detection》（さいたまトリエンナーレ 2016）、《repetitive object》（大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018）などがある。第28回（2017年度）タカシマヤ文化基金受賞。2019年は、美術館では初の大規模個展「非常にはっきりとわからない」（千葉市美術館）が話題を呼んだ。



photo: Takahiro Tsushima